

多様性のある Yale 大学での研究環境

Department of Immunobiology
Yale School of Medicine

亀田 和明

(自治医科大学附属さいたま医療センター血液科)

私は 2022 年 8 月から、Yale 大学医学部の Andres Hidalgo 研究室で、ポスドクとして研究をしています。Yale 大学はコネチカット州の New Haven という街にあります。大学は街の中心部を大きく占めており、街の中に大学があるのか、大学の中に街があるのか分からない感じです。

Hidalgo 研究室は、2022 年 9 月から本格稼働し始めたばかりの新しい研究室です。教授の Andres はスペイン出身でマドリードから Yale 大学へ移ってきました。といってもスペインの研究室にもまだメンバーが残っており、彼はスペインとアメリカを行き来するとても忙しい生活を送っています。私たちの研究室は医学部の中の免疫学部門に所属しています。免疫学は部門の中に 30 ほどの研究室があり、Yale の医学部の中でも大きな規模です。部門の中でのセミナーも活発ですし、外部からも一流の研究者が毎週のように呼ばれて講演をしてくれます。私たちの研究室のメインテーマは自然免疫系、その中でも好中球とマクロファージの生物学です。ただ、Andres はポスドクを血液学の研究室で過ごした後に免疫学へ転向し、スペインでの所属は国立心臓血管研究センターだったという幅広いキャリアを持っており、その経験が活かされた多様な研究テーマとコラボレーションを展開しています。

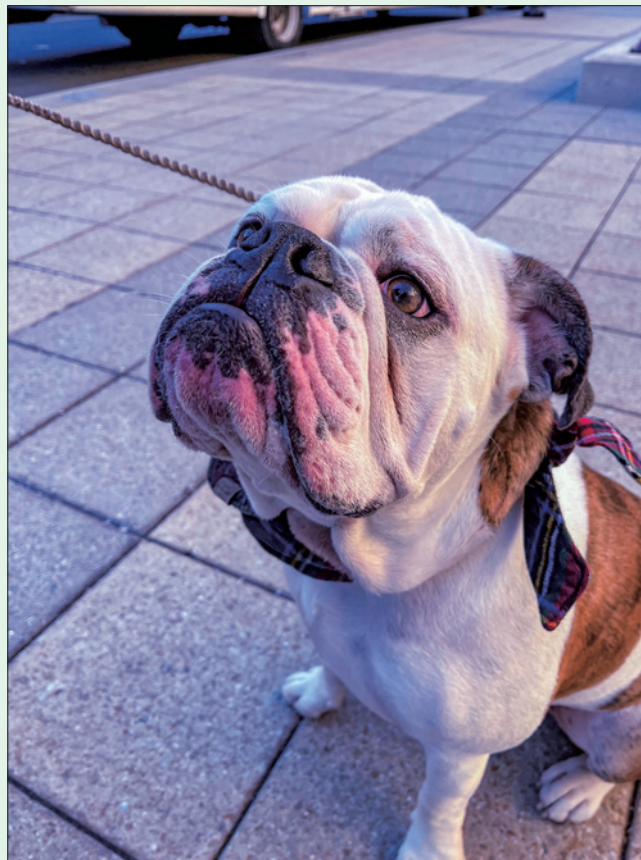
私自身はバックグラウンドが血液内科医であることから、研究室ではただ 1 人造血系の研究もしています。研究室自体が立ち上げ段階で、メンバーも一部はスペインの研究室から移ってきていますが、その他は新しく来た人ばかりでとてもフレッシュです。そしてメンバー全員が違う国出身でありながらアメリカが母国のメンバーが 1 人もいないという少し変わった、でも多様性がある環境です。全員が英語が非母国語であるからか、私の下手な英語にもとても優しく接してくれます。こちらにきて 9 ヶ月が経ちますが、とても良い研究室に来たと思っています。

その他、感じたことをいくつか書き留めておきます。

1. 教授相手でも first name で呼ぶのが当たり前な雰囲気には最初は戸惑いました。
2. 日本文化は非常によく知れ渡っており、寿司はどこにでもあり、みんな好きです。
3. Yale の国際的で多様な環境は素晴らしいです。ただ私たちが日本でよく伝え聞くアメリカとは大きく異なっており、典型的なアメリカではないかもしれません。
4. アメリカではみんな働く時間が短い、というのは私の研究室には当てはまりません。

5. 残念ながら治安はとても良いとは言えず、いつも心のどこかに緊張感があります。
6. 食事は予想していたよりもずっと美味しく楽しんでいます。
7. 物価高は非常に辛く、日本はもはや安い国なんだと悲しい気持ちになることがあります。
8. 現地での日本人同士の繋がりはとても重要で、本当に多くの場面で助けてもらっています。
9. 子どもの言語習得はとても速く、すでに親よりも発音がきれいです。

最後に、このような貴重な留学生生活を支援いただいた上原記念生命科学財団に心より感謝申し上げます。



Yale 大学のマスコットはブルドックの Handsome Dan です